

音楽と舞 【近現代絵画・彫刻】



鴨居玲《望郷を歌う（故高英洋に）》
—「音楽と舞」より—

- 《荏柄天神縁起絵巻》と天神画像
—前田家の天神信仰— 【前田育徳会尊経閣文庫分館】
- 大乘寺の文化財 【古美術】
- 優品選 【近現代工芸】
- 優品選 【近現代絵画・彫刻】
- 絵画と調度—重要文化財 伝雪舟筆《四季花鳥図》を中心に—
【前田育徳会尊経閣文庫分館】
- 加賀文化の粹Ⅰ 【古美術】

- 3月の企画展示室
- ミュージアムレポート
- 友の会会員募集！
- アラカルト ただいま展示中

前田育徳会尊經閣文庫分館

《荏柄天神縁起絵巻》と天神画像 —前田家の天神信仰—

2月11日(土・祝)～3月22日(水) 会期中無休

近現代絵画・彫刻(第4展示室)

音楽と舞

2月11日(土・祝)～3月22日(水) 会期中無休

収蔵品から、音楽や舞踊などを表現した作品を集めました。

〔楽器とともに〕では、楽器を持ったり弾いたりしている人物の作品を主に展示いたします。ここではギターやアコーディオン、ピアノ、トランペットが登場します。東典男《バラライカを持つ裸婦》に描かれるのは、三角形の胴をもつギターに似た弦楽器。楽器を爪弾く様子を90度回転させ、独特な浮遊感を醸し出しています。

〔歌い、踊る人々〕では、歌と踊りの場面が展開します。鴨居玲《望郷を歌う(故高英洋に)》は、アリアンを熱唱する歌手・李順子^{イスンジャ}の姿をあらわします。生を肯定する力強い空気は鴨居作品のなかでも珍しく、強烈

な印象を観る者に与えます。このほか、踊る身体を抽象化した彫刻作品や、バレエレッスンの一場面もご覧いただけます。

〔日本を奏でる〕では、祭りや宴の風景をお楽しみいただけます。南政善《蝙蝠》は、座を取り持ち遊興を助ける翳間^{ほうかん}を描いた作品です。ひょうきんな表情と軽やかなポーズから、宴席のにぎやかな雰囲気は想像されます。谷村俊英《祭り詩》は、作者の「着物シリーズ」の一点。左手に面を持ち、ややしなをつけて立ち止まった浴衣姿の若い女性をとらえています。快活そうな姿とヒョットコ面との取り合わせが面白い作品です。

歌やダンスの楽しい雰囲気をお楽しみください。

菅原道真の没後、京都では疫病や天災などの禍が続いたことから、これらは「道真の怨霊のしわざ」と語られるようになります。その道真をめぐるエピソードを詞書と絵にあらわしたのが《天神縁起絵巻》です。展示室では、各場面をそれぞれ詳細に紹介しますが、今号では見どころのひとつである「柘榴天神の場面」について、ご案内しましょう。

描かれるのは、延暦寺の僧・尊意僧正が法会を行う山中です。黒の束帯姿の人物が、ふたり描かれています。これはふたりとも道真です。ここでは「異時間図」という、ひとつの画面に異なる複数の場面を描き込む手法で、物語が展開します。

まず、右の道真です。室内の様子は描かれませんが、法会を行う僧正を訪ねます。恨みを晴らすべく、

「鳴雷となつて、内裏に侵入する予定である。どうか邪魔をしないように」と伝えます。僧正は「助けて欲しいと帝から命令があつても、一度や二度では内裏に参内はしないが、三度目となつたら、内裏へ向かうだろう」と答えます。

この僧正の返答に激怒するのが、左の道真です。怒った道真は、目の前にあつた柘榴をかみ砕き、吐き出します。吐き出した柘榴は、炎となって妻戸は燃え上がります。

吐き出した柘榴が炎となる場面は、道真を主人公とした能や歌舞伎においても、見所のひとつとされてきました。この名場面が絵巻においてどう絵画化されているのか、じっくりとご鑑賞ください。



谷村俊英《祭り詩》

優品選

2月11日(土・祝)～3月22日(水) 会期中無休

今年度最後の近現代工芸・優品選では、冬から春に向けてみられる風景、自然の草花などを中心に、季節の移り変わりを感じられる作品を特集しております。

そのなかで今回は、椿や梅など季節と色を感じる草花を表現した作品を多めにとりそろえました。各作家がそれぞれの眼でとらえ表現した姿を存分に楽しむことができます。椿は寒さ厳しい冬の中より、凛として咲くその様子から「忍耐」「生命力」の象徴とされ、邪気を払う力も有るとされ大事にされています。その姿を陶磁の中村研一《八重椿図皿》のほか、高木松生《金欄手飾皿「椿の径」》、中憲一《色絵椿飾皿「斑雪」》、武腰潤《椿の筐》と。着物では窪田裕兆《友禪訪

問着「椿」》、白坂幸蔵《友禪訪問着「春を待つ」》とご覧頂きます。梅もまだ春も遠い寒い時期に、他の草木に先駆けて花を咲かせることが、強い生命力とともに華やかさを表すものとされています。漆芸では上棚宗佐《朱黒漆塗梅形中次》、新村撰吉《梅花文蒔絵筥》、奥には華やかさをふんだんに添えている、日本画での木村雨山《紅白梅図》、寺井直次《金胎蒔絵水指「梅」》ほかをご覧ください。

身近に触れられる自然での表現、季節の流れに咲く草花の色、ちから、暖かさなど、寒い冬から春に移り変わる、春を待ち望むころ・姿が作家によってどのように表現されているのか、ごゆっくりお楽しみください。



新村撰吉《梅花文蒔絵筥》

大乘寺の文化財

2月11日(土・祝)～3月22日(水) 会期中無休

前回は「大乘寺の文化財」に出品された作品について、その概要をご紹介いたしました。本稿では、その中でも菩提達磨ぼだいだるまに関連する作品に焦点を当ててみます。

前号でもお伝えした通り、菩提達磨とはインドから中国に禅を伝えた人物とされています。出展中の《達磨図》のような半身の姿や、狩野探幽《芦葉達磨図》のような全身像など、数多くの達磨図が描かれました。多くの場合、口ひげとあごひげをたくわえ、大きな耳に輪状の耳飾りを付け、赤衣をまとった姿で表されます。

現在、出展中の作品に注目してみましょう。半身で描かれた《達磨図》はよく見ると青い目をしていいます。これは「碧眼の胡僧」、つまり「青い目のインド僧」というイメージの表現と考えられます。

狩野探幽《芦葉達磨図》の足元には、大きな一枚の

葉っぱが描かれています。これは「芦葉達磨」といって、達磨が南朝から北魏に向かう際、一茎の芦に乗り揚子江を渡ったという伝説に基づくものです。

また大乘寺中興の祖とされる月舟宗胡げっしゅうそうこの書も展示します。作中の「一華開五葉 結果自然成」という句は、達磨の「吾本来東土 說法救迷情 一華開五葉 結果自然成」という偈の後半部分です。達磨がインドから中国に来て迷いを救うために禅宗を伝えたが、禅宗は将来五つに分かれてそれぞれ栄えるだろうということを意味しています。

達磨に関する作品のほか、重要文化財や石川県指定文化財など、見ごたえのある作品をそろえました。ぜひ会場にて鑑賞ください。



狩野探幽《芦葉達磨図》

近現代絵画・彫刻(第3・6展示室)

優品選

2月11日(土・祝)～3月22日(水) 会期中無休

第6展示室では「春を待つ心」をテーマに、移りゆく景色を日本画で楽しんでいただきます。そのような展示室で異彩を放つ一点が、梅川三省《春の女神》です。梅川は、その画業の後半、神話を絵作りの中心に据えてきました。春を告げる女神を描いた本作が、惜しくも病に冒されていた画家最後の作品となりました。最晩年の作とは思えない、充実した筆力です。油彩画分野から、色とりどりの花に囲まれた二人の裸婦を描いた宮本三郎《裸女たちに捧ぐ》を紹介します。宮本は晩年、裸婦を主題とした華麗な世界を描きましたが、本作もその時期を代表する作品の一つです。鮮やかで色彩豊かな画面からは、生の歓喜と描くことの喜びが感じられます。

素描・版画部門から白尾勇次の水彩作品を紹介します。コンクリートやアルミニウムなどをリアルに描写し、抽象的畫面の作品を制作する白尾氏。作家自身は、「物と空間とのかかわる小宇宙のドラマを表現したい」と願い作品制作を行っています。知的な眼と精神の宿る、クールな映像感覚の作品をお楽しみ下さい。

彫刻分野からは、数色の漆を塗り重ねたあとに研ぎ出すことで衣のマーブル状の模様をあらわした中島東洋《婦人像》、力強い老人の肉体が印象的な吉田三郎《山羊を飼う老人》、動物作品もよく手がけた木村珪二による犬の小品《Paceの像》、前号で紹介した田中昭《春葩》を展示いたします。



宮本三郎《裸女達に捧ぐ》

3月の企画展示室

第7展示室 第46回 伝統九谷焼工芸展

3月10日(金)～19日(日)会期中無休

昭和五十一年に認定された石川県指定無形文化財保持団体九谷焼技術保存会が、技術保存・発展向上を図るための事業として毎年行っている公募展で、入選作並びに九谷焼技術保存会会員の作品を一堂のもとに展示します。

◇観覧料 一般…三五〇円(二八〇円)

大学生…二八〇円(二二〇円)

高校生以下無料

※()内は二十名以上の団体料金。当館友の会会員は、会員証の提示により団体料金になります。

◇連絡先 能美市泉台町南十三番地

石川県九谷会館内

九谷焼技術保存会事務局

電話…0761-5710125

古美術(第2展示室)

加賀文化の粹 I

3月28日(火)～4月17日(月) 会期中無休

今回は、江戸時代の加賀文化を代表する作品を選んで展示します。加賀文化の特質は、先行する京都や江戸の文化を取り入れ、加賀藩主・前田家をはじめ当地独自の美意識によって、新たな価値を付加していることです。

この特質は、久隅守景の重文《四季耕作図》にも遺憾なく具現化されています。守景は江戸の出身と考えられており、幕府の御用絵師・狩野探幽のもとで頭角を現します。探幽の門人として高岡の瑞龍寺の襖絵も手がけていますが、後年、探幽の門を離脱しています。文化で江戸幕府に対抗することに意欲を燃やした加賀藩が、幕府の御用絵師と何らかの確執があった守景に熱い視線を送ったことは想像に難くありません。そして守景もそのことを意気に感じたこととでしょう。そこで守景は、狩野派が受注する画題の

定番の一つともいえる「四季耕作図」に独自の世界を展開してゆきます。

一連の制作の最終段階と考えられる、当館の重文指定作品には代官が描かれているように、そこには、加賀藩が推進した先進的な農業政策を称賛する意図があったと考えられます。

さらにこの作品には、守景の遊び心も発揮されています。たとえば、夏の景には農作業とは関係なく、扇で涼を取る男が描かれています。この人物が、守景の代表作である国宝《納涼図》に描かれた男と似ていることに着目した守景論を、当館の『紀要』に発表したところ美術番組の「美の巨人たち」や「日曜美術館」で紹介していただきました。さて、この人物は誰なのでしょうか？



重要文化財《四季耕作図》久隅守景(部分)

前田育徳会尊經閣文庫分館

絵画と調度

一重要文化財 伝雪舟筆《四季花鳥図》を中心に一

3月28日(火)～4月17日(月) 会期中無休

まだ冷え込む日の多い三月の金沢を離れ、東京へ向かうと、春がもう始まっていることに気づかれます。前田育徳会に隣接する東京目黒区の駒場公園は、都内屈指の桜の名所です。満開を心待ちにする人々の表情と、あたたかい春の日差しを横目に、前田育徳会へ向かいます。

前田育徳会尊經閣文庫分館では、当館で保管する作品だけでなく、展示のテーマにあわせて前田育徳会から拝借した作品も紹介しています。拝借した作品を返却し、また新たに拝借する仕事を行うのが、例年三月あたりです。駒場公園内には、前田家が昭和初期に建てた洋館と和館がありますが、一日の仕事を終え、その和館の庭園を眺めて帰るのが、定番となっています。

三月末からの展示では、育徳会が所蔵する作品の中から、重要文化財の伝雪舟筆《四季花鳥図》屏風をはじめ、春にちなんだ絵画と工芸作品を紹介します。武家において、馬に乗る際に用いる鞍と鐙を揃えることは必然であり、江戸時代になって泰平の世が続くと、華麗な装飾が施されるようになります。《黒塗村梨子地桜寿帯鳥蒔絵鐙》は、黒の梨子地に、桜と尾の長い寿帯鳥を蒔絵で施した美しい作品です。

広蓋は、衣服を納める箱の蓋からこの名称がつけました。お盆のように納めて渡すのに用います。三つからなる《蒔絵広蓋》は、ひとつに重ねられるようそれぞれ大きさが異なり、模様も異なります。枝垂桜に幔幕模様様が華やかに施された広蓋は、そのひとつです。

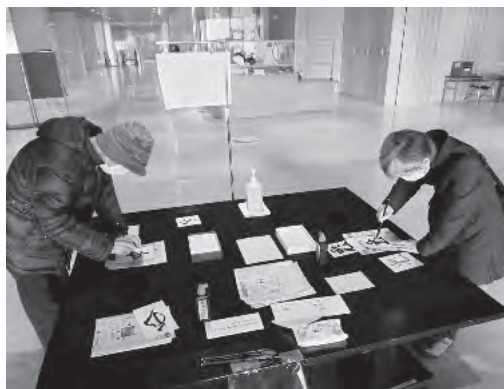
《黒塗村梨子地桜寿帯鳥蒔絵鐙》

美術館でかきぞめ

令和5年1月4日(水)実施

一月四日、コレクション展示室におきまして、新春企画イベント「美術館でかきぞめ」を行いました。このイベントも今年で八年目となり、すっかり恒例となっています。例年は毎年継続してご参加の方がいらっしゃいましたが、今年は新年を金沢で過ごされた観光客のご家族をはじめ、出世街道のスタンプ対象のイベントということで、小さなお子さんのご参加が目立ちました。

会場には今年の干支のひらがなの「うさぎ」から「卯」の甲骨文にはじまり、草書や行書とさまざまな書体、そして、「春」「夢」など新春にふさわしい一文字のお手本を用意しております。はじめて筆をもつ小さなお子さんから、久しぶりに筆を持ち学生時代を懐かしむ方々まで、その取り組み様子も、お手本を見ながらじっくり書く方もいれば、自分の想いを大切に一気に書き上げる方など様々です。それぞれに年の初めならではの美術館でのイベントを楽しんで頂きました。毎年、館内に掲示させて頂いた作品は、近隣の神社の左義長に出しています。



NHK Eテレにて放送されている「びじゅチューン！」という番組をご存知でしょうか。この番組は、アーティストの井上涼さんが、さまざまな美術作品に発想を得たアニメーションを制作、放送するものです。井上さんならではの「ユニークな目のつけどころ」や、一度聴いたら忘れられないような歌詞とメロディーが魅力で、美術ファンの間で人気を博しています。そんな人気番組に、なんと当館所蔵の国宝《色絵雉香炉》と重要文化財《色絵雌雉香炉》（いずれも野々村仁清作）が取り上げられました！「雉香炉さんちは職場結婚」というタイトルで、すてきなアニメーション作品に仕上がっています。

作者の井上涼さんは金沢美術工芸大学のご出身です。作品のアニメーションだけでなく、音楽の作詞、作曲、歌唱までを手掛け、多彩な才能を発揮されています。

テレビ放送はすでに終了してしまいましたが、NHK公式YouTubeチャンネルにて引き続き視聴できるようです。「びじゅチューン！」や「雉香炉」で検索すると上の方に表示されるかと思えます。当館の雉香炉が躍動する姿をぜひご覧ください。



こちらから
視聴いただけます



左：国宝《色絵雉香炉》野々村仁清
右：重要文化財《色絵雌雉香炉》野々村仁清

令和5年度

石川県立美術館友の会 会員募集！

3月1日(水)から受付開始！郵送でのお申し込みは郵便振替で。
現会員で継続を希望される方も、改めてお申し込み下さい。

1. 会 費 2,000円

2. 受付期間 3月1日（水）より開始。

3. 入会手続 次のA、Bいずれかの方法。

A 直接来館してのお申込み

- ・会 員 証：その場で発行。
- ・場 所：1階 情報・図書コーナー
- ・申込方法：会費（現金）と入会申込書に所定事項を記入して提出。
- ・受付時間：午前9時30分～午後5時30分（休館日を除く）

※展示替えによる3月の休館日は、23日（木）～27日（月）です。

B 郵便局からのお申込み

- ・会 員 証：3月末から美術館だよりと共に郵送。
- ・申込方法：同封の払込取扱票に所定事項を記入し、最寄りの郵便局（ゆうちょ銀行）窓口にて支払い。払込手数料は申込者負担。
- ・注意事項：郵便局で払込した方は、同封の申込書を郵送する必要はありません。払込取扱票の受領証は、会員証が送付されるまで大切に保管してください。

※郵便局（ゆうちょ銀行）備え付けの振替用紙をご使用の場合、口座番号・加入者・通信欄に以下の事項を記入してお支払いください。

- ・郵便振替口座：00700-7-46490
- ・加 入 者 名：石川県立美術館友の会
- ・通信欄記入事項：年齢、性別、会員の区別（継続・新規・元）、職業、継続会員の方は現在の会員番号

4. その他

- ・会員証の有効期限：令和5年4月1日～令和6年3月31日
- ・会員証の対象：記名者本人のみ（ご家族の方との連名受付はありません）

※一度納入された会費の返金はできません。

※会員証紛失による再発行はできません。

会員の特典

- コレクション展に無料で入場可（要会員証・会員本人のみ）
- 企画展入場券進呈（当館主催の企画展に2回無料で入場可）
- ※国立工芸館共同開催の「三の丸尚蔵館名品展（仮）」も対象です。
- 入館料の割引（要会員証）
- ①同伴者2名まで：コレクション展、企画展観覧料が割引。
- ②会員本人のみ：石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢21世紀美術館、脇田美術館の各館主催展覧会を割引。
- 館主催諸行事への参加
- 館内カフェ「ル ミュゼ ドゥ アッシュ KANAZAWA」にてドリンクの割引（要会員証、平日のみ）
- 最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより（本誌）』を毎月郵送

《歌姫》うたひめ

高さ190 幅90 奥行70cm
昭和59年(1984) 第16回改組日展

得能節朗 とくのうせつろう

昭和5年～(1930～)



扇を持つポーズが印象的な女性像です。作者が台湾人歌手のステージ姿を見た際、その美しさに魅せられてすかさずデッサンを行い、制作に至りました。流れるような肉体の線と形の美しさを表現した本作は、やわらかく繊細な造形美をもちます。下地に金箔をはりつけ、淡い緑色で着色した表面がその華やかさを強調しています。本作は日展で会員賞を受賞していますが、彫刻部門では県内初の快挙となりました。

得能は一貫して女性像に取り組み、その美を追求していくことで究極の美に迫っていきたいと考えてきました。外形はもちろん、内面的、つまり精神的な美しさをも表現することを目指す姿勢は、様々なバリエーションの女性像を生み出しています。

得能節朗は昭和五年岡山県生まれ。軍医であった父の勤務で、大阪・宇都宮・旅順(中国)・東京などに移り住みました。幼い頃は本や雑誌の挿絵が好きで、よく真似をして描いていたそうです。昭和二十三年に金沢美術工芸専門学校に入学し、畝村直久の薦めで彫刻科に転科し、その後彫刻制作を続けることとなります。在学中の昭和二十六年に日展初入選、同四十二・四十三年特選、同五十七年会員賞受賞。平成七年に日展内閣総理大臣賞。日展評議員、金沢美術工芸大学名誉教授。北陸日彫会の三代目会長に就任するなど、金沢の地で彫刻界をリードしています。

本作は第4展示室「音楽と舞」で展示中です。会期は三月二十二日(水)までです。ぜひご覧ください。

次回の展覧会

令和5年4月23日(日)
～5月28日(日)
会期中無休

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室
利家を描く		加賀文化の粋 I
第5展示室	第3・4・6展示室	
四季の移ろい I 【工芸】	優品選 【絵画・彫刻】	

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

3月6日は第1月曜日より

コレクション展示室無料の日

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

3月の休館日は
23日(木)～27日(月)

『石川県立美術館だより』に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員・石川県立美術館協力者・
県内各行政機関及び文化施設・全国の美術館・博物館へ

郵送配布!

2,500部発行

詳しくはお問い合わせください

株式会社ウィット Tel.072-668-3275

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目14-17-501

Fax.072-668-3276

株式会社ウィット 検索

HP.https://wi-t.co.jp/

WEBお問合せ
フォームはコチラ



石川県立美術館だより
第473号(毎月発行)
2023年3月1日発行

〒920-0963

金沢市出羽町2番1号

Tel:076(231)7580

Fax:076(224)9550

URL https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。